第四十二回全国高等学校演劇大会参加作品

滝高等学校

かぐや姫異聞

作　瀧　源作

連絡先
滝　高　校
〒四八三―八四一八
愛知県江南市東野町米野一番地
電話（〇五八七）五六―二一二七

著作権者連絡先
滝高校演劇部ＯＢ会会長　水谷潤一
〒四八四―〇〇七三
愛知県犬山市天神町五ノ二十五

キャスト

かぐや
じじ
ばば
しんざ（兄さ）
ゆき
しんざの父
村の子供・・・多数
村人・・・多数
公家・・・４人
女官・・・５人
かぐやの先生・・・３人
武士・・・多数
小屋主
本かぐや
黒衣・・・多数

狂言回し

狂言まわし

・木頭の音とともに、緞帳が開く。舞台中央には手に笹を持った踊り子が6人集まっている。木頭の音が鳴りやむと同時に、踊り子の中から狂言まわしが飛び出してくる。踊り子達は去る。

東西、東西。本日はお運びいただきまして、誠にありがとうございます。おや？　おやおやおや・・・本日は誠にお美しい女性の方ばかり。私、こう胸がドキドキなってしまいまする。・・・そちらの方・・・いいですねぇ。私好みでございますよ。・・・おや、こちらの方は、・・・中の上といったところでしょうか。

（ハリセン）

古へより、事の始まりは女子（おなご）から。心一つで男共。あちらこちらへ右往左往。ましてやこれ、美しい女子となれば、なおさらの事。女の手の上で、男が踊る。これが世の常でございます。本日はそのような女の話にござりまする。（ハリセン）　ここは山奥。たいそう古びた小さな家がポツリとたっておりました。ここには貧乏な老夫婦が住んでおりまして、・・・こちら。

・黒衣により黒幕で隠されていた「じじ」が姿を現す。こちらのなんとも貧相な男。名を讃岐の造、呼び名を竹取りの翁といいまして、その名の通り、竹取りを生業としておりました。　その女房がこちら。

・黒衣により黒幕で隠されていた「ばば」が姿を現す。こちらはたいそう我が強く、欲の深い女なのでございます。このような二人でございますから、毎日毎日口を開けば喧嘩ばかり。いつもばばが、やれもっとうまいものが食いたいだの、着物がほしい、貧乏は厭じゃ厭じゃと愚痴ばかり。さりとて、じじのほうもこんな貧乏暮らしには嫌気がさしておるわけでして、そうしてまた喧嘩が始まるのでございます。

・「じじ」と「ばば」は、狂言回しのセリフに合うように動き始める。

狂言まわし

ばば

じじ

ばば

じじ

ばば

じじ

ばば

じじ

ばば

じじ

ばば

じじ

ばば

じじ

ばば

じじ

翁はいつものように、山へ入って竹を探しておりました。と、どこからか赤子の泣き声が聞こえてくるではありませんか。不思議に思って翁は、おそるおそる泣き声がするほうへと近づいていきました。すると、そこにはなんと、小さな赤子がぼろ布にくるまれて大声で泣いておったのです。驚いた翁は、思わず赤子を抱き上げ、あやしましたが、これがどうにも泣きやまず、翁は途方にくれながらも赤子を抱いてあたふたと家に帰ったのでございます。「じじ」が帰ったちょうどそのころ、「ばば」は破れた着物を繕っておりまして、その赤子を見て一言。

・狂言回しは去る。

なんじゃ　それ！

あ、・・・赤ん坊じゃよ。

そんなもんわかっとるわ。　どうしたのかと聞いとるんじゃ。

いやぁ・・、あそこの、竹藪の中に落ちとったんじゃよ。いやぁ、わしは・・・

・・拾ってきたんじゃあるめえなぁ。

いやぁ。ほら、かわいいじゃろ　この子。

拾ってきたんじゃぁ、あるめぇなぁ。

な、なんとなくな。その・・・

このっ、馬鹿たれが！　ちっとも稼がんくせに、そんなもん拾ってきおって、このクズがぁ。

クズぅ？　おまえがガンガン使うから金が残らんのじゃ。

わしゃ使っとらんぞ。

このあいだの『櫛』はなんじゃ？

あれだけじゃ。それにあれは失くなった。

失くしといて、その態度は何じゃ！

文句あるかぁ？

ない。・・・じゃが、そんな『櫛』買うぐらいなら、わしのこの手ぬぐい買い替えろ。かれこれ5年は使っとる。

ばば　（手ぬぐいを見ながら）大事に使えば、あと3年は使えるわい。
じじ　使えるか！　わしゃそれで、顔ふいて、体洗って、尻ふいとるんじゃぞ！
ばば　そうか
じじ　5年じゃぞ。
ばば　まあ、そりゃええわい。
じじ　よくないわ！
ばば　それに、その子育てるにしても、やる飯はないぞ。
じじ　・・・おまえ、乳出るか？
ばば　出るわけなかろう。
じじ　わし・・出るかの・・ヨイショッ・・・クッ・・（一所懸命に出そうとする）
ばば　ほー。出せるもんなら出してみい。
じじ　ぬっ、くっ・・・、（誤魔化して）あーええ天気じゃのう。
ばば　乳はどうした？
じじ　ほんなもん出んよ。お前に吸われきった。
ばば　アホぬかせ。早くそんなもん捨ててこい。
じじ　捨てるなんて、そんな・・・・
ばば　捨てんとわしが食っちまうぞ。
じじ　わしを？
ばば　赤ん坊じゃ。分かったら、早よ行け。
じじ　そんな、もったいない・・・こんなにかわいいのに・・・なあ。
ばば　かわいいだけで育てられるか。飯のほうがもったいないわ。
じじ　飯なんて、何か売ればできるじゃろ。
ばば　売れるもんが家にあるんか？
じじ　（まわりを見回してから、赤ん坊に気づき）こいつ、なんちゃって。ハハハハハハ・・・・・、なぁ　じじ。
ばば　あ？
じじ　（ニコニコして）赤ん坊なんて売れんじゃろ。

じじ　そりゃそうじゃ。
ばば　その子。大きくなってもかわいいかの？
じじ　そりゃ別嬪になるじゃろ。
ばば　別嬪じゃと、高く売れるかの？
じじ　そりゃあ、そうじゃろ。
ばば　なぁ　じじ。
じじ　・・オオ・。
ばば　・・おお・。
じじ　オオ。
ばば　おお！
じじ・ばば　売るか！！

・舞台は暗転。狂言回しが出てくる。

狂言まわし　こうして、人生最後の好運を手にした「じじ」と「ばば」は、人生最初の不幸に遭ったこの赤ん坊に、「かぐや」と名付けました。そして山の中の一軒屋で人目につかぬよう、ひっそりと育てておったのでございます。何年かたち、じじばばのたくらみも一層の形を見せるまでになりました・・。が、当の「かぐや」といえば、日を追うごとに醜くなり、体は垢にまみれ、ひどい悪臭を放つ醜女になっていったのでございます。

・ダンス・ミュージックＩＮ。狂言回しは去り、ダンスメンバー２０人が、各人手に笹を持っておどる。ダンスが終わると、「かぐや」が舞台中央で笹を手に持ち立っている。そこへ、「じじ」が登場。

じじ　かぐやー。かぐやー。
かぐや　あーい。
じじ　おお、かぐや。どこ行っとったんじゃ。
かぐや　森の狸と遊んどった。
じじ　勝手に家を出るなと言ったろ。　おーい、ばば。ばばー！・・・・くそばばー。

・「じじ」が向いている方向とは反対から、「ばば」が登場。

ばば　なんじゃいっ。

じじ　すまん！！！

ばば　なにが！？

じじ　なんにもっ！！

ばば　？？　まぁ、ええ。かぐや、村の者に見つかっとりはしまいな。

かぐや　うん。

ばば　怪我はしとらんじゃろうな、怪我は。

かぐや　ここ、痛い。

ばば　ばかもん。お前は大きくなったらどうなるか分かっとるんか？

かぐや　売られる～。

ばば　だったら怪我をするな。

かぐや　あーい。

じじ　まぁええじゃないか。元気があって。

ばば　なに！？

じじ　わしだって昔はそうじゃった。青い空の下、竹林の中をいつも走っておった。風をきる音は気持ち良く、小さな小川など、一飛び。ぐわっ・・。

ばば　どうした？

じじ　こ・・腰が・・・。

ばば　アホ。いい年してそんなことするからじゃ。大体こいつが、売りもんにならんかったら、わしらの今までの苦労が水の泡じゃぞ。

じじ　しかし、今でも充分金にならんぞ。

ばば　何？　ひろってきたのはお前じゃろ。

じじ　育てようと言ったのはお前じゃ。売って儲けようって言ったのもお前じゃ。

ばば　なんじゃと。わしのせいにするんか？　なら、もう家には入れてやらんぞ。

じじ　わしだって、あんな家に戻らんからな。

じじ・ばば　（入れる入れないで揉めている。）

かぐや　なぁ　ばば。

ばば　なんじゃ？

かぐや　腹減った。

ばば　腹減ったって、お前を探しとって何も作っとらんのじゃ。山行って筍でも採ってこい。

かぐや　あーい。

じじ　へっ、いつもこうじゃな。

ばば　なに？

じじ　なーんも。かぐや、早く行ってこいな。

かぐや　あーい。　（行きかけるが）あ、かごー。

ばば　そんなもん、家に行けばいくらでもあるじゃろ！

かぐや　あーい。

じじ　おおそうじゃ。わしの大事なかぐやが迷子になるといかんで、わしもついていくとするか。

ばば　こら。じじ。お前は帰ってきても家へは入れんぞ。

じじ　じゃ行こうか。

ばば　入れんからなー。

・３人は去る。

・つけ木の音。つけ木の音に合わせて子供たちが入ってきて、ポーズをとる。最後に「かよ」が入ってくる。

かよ　みんな、みーつけた！

・子供達は、口々に叫びながら逃げ回る。そのうち「ひで」が転び、その上に「かよ」が飛び乗る。

まさ　つかまーえた。次は、ひでの鬼ね。

かよ　え～まだやるの？

ひで　うん。

なお　もう、疲れちゃった。

かよ　やめたいよー。

みほ　だーめ、まだやるの。

ひで　かよ、勝手すぎるよ。

きよ　そうだよ。

　　もう、やーめた。

はな　私もやめた。
かよ　あー、ずるいーっ。
みほ　ずるくないよ。
かよ　ずるいっ、ねぇやす。
やす　（うなずく）
みほ　ずるくないっ、ねぇやす。
やす　（うなずく）
かよ　ずるい。
やす　（うなずく）
みほ　ずるくない。
やす　（うなずく）
かよ　ずるい。
やす　（うなずく）
二人　どっちなの！！
やす　えーん。
かよ　・・・もういいよ、やーめた。
きよ　（舞台端を指差し）あっ！魚だ。
　・子供達は「きよ」についていく。下手から「かぐや」
　　が子供達に加わる。
ひで　あーあ、いっちゃった。
きよ　今日、何も持ってきてないし、
みほ　・・あっ！今日は筍採りに来てたんだった。
かよ　早く採って帰らないとじじにおこられる。
まさ　うちのおっ父もうるさいし。
かぐや　うちのばばもうるさい。
きよ　（かぐやを不信に眺め）誰だ？お前。
かぐや　え？わし？　わしはね・・・
みほ　うわぁ、この子臭い！
かぐや　何が？
きよ　おまえだよ。おまえが臭いんだ。
はな　汚い子ねぇ、体も臭いし。
みほ　着物もぼろぼろだよ。
かよ　だめだよ、そんなこと言っちゃあ。みんな仲良くしなさいって村のじじが言ってたよ。だから・・・

かよ　（自分の周りに飛んでいるものを手で払いながら）何、これ？
はな　蝿！
かよ　うわぁー！
きよ　汚ねえ。かよ、こっちくんな。
　・「じんざ」と「ゆき」が、下手奥から登場。
かよ　だってあの子がきたないんだもん。
みんな　（口々に）あっちいけー。
　・子供達は、「かぐや」を追い払うように石を投げる。
しんざ　こら！お前たち、何やってんだ！
子供達　逃げろー。
　・子供達は、四方に去る。
しんざ　かぐや、大丈夫だったか。
かぐや　何が？
しんざ　今、いじめられてたんだろ？
かぐや　誰が？
しんざ　かぐやだよ。
かぐや　わし、。いじめられてたんか？
しんざ　うん、いじめられていたと思うよ。
かぐや　全然、気がつかなかった。
ゆき　わしも、よく分からなかった。
かぐや　そういう風に見えたんだ。
かぐや・ゆき　そういう風に見えたんだ。
ゆき　おかしいね。あははは・・・
かぐや　お前ら二人、ほんとに良く似てるな。
しんざ　似てるって。あはははは・・・
かぐや・ゆき　・・・・
しんざ　兄さ達、今日はどうしたんだ？
かぐや　あのね、今から兄さと都に行くんだ。
ゆき　都へ炭を売りに行くんだけど、ゆきがどうしても都を見たいって言うから。
しんざ　かぐやは今日は何しに来たんだ？
かぐや　ばばが山行って筍採ってこいって。
しんざ　へえ、かぐやは働き者だなあ。

かぐや　働かないと、ばばが怒るからな。
しんざ　よし。じゃあ俺が採ってきてやるから、しばらく二人で遊んでな。
かぐや・ゆき　うん。
・「かぐや」と「ゆき」は、川べりに見立てた舞台かまちに座って、足を川に浸している。
ゆき　ねえかぐや。かぐやは何か欲しい物ってない？
かぐや　欲しい物？
ゆき　うん。都に行けば、何でもあるんだって。だから、欲しい物があったら、オラが持ってきてあげるよ。
かぐや　・・・・うーん・・・欲しい物は良く分かんないけどさ、おなかすいたから、いーっぱい食べたいな。（大きな身振り手振りで）こーんくらい。
ゆき　じゃあさ。大きなお茶碗がいるね。
かぐや　そっかぁ。大仏様なら持ってるかもね。
ゆき　持ってるよ、きっと。　でもさ、そんなに大きなお茶碗だったら、ネズミさんが入ったら、出られなくなっちゃうね。
かぐや　じゃあ、ネズミさんも一緒に炊いちゃえばいいよ。
ゆき　そうしたら、ネズミさん焼け死んじゃう。
かぐや　そっか。火にも負けないネズミさんだったらいいのにね。
ゆき　・筍を採り終えて、しんざが戻ってくる。
しんざ　ほら、かぐや。
かぐや　わぁー、大っきい。ありがと、兄さ。
しんざ　お前達、何の話をしてたんだ？
ゆき　都のこと
しんざ　そうか。
ゆき　都ってさぁ。大きなおうちがいっぱいあって、みんなきれいな着物着てて、何でもある所なんだよね。ね、あにさ。
しんざ　ああ。
ゆき　（はしゃいで）かぐやもさ、大きくなったら都に住みた

かぐや　いって思わない？
しんざ　わしは大きくなったら売られるから、都に住むかもしれない。
かぐや　あっ、そうか。
しんざ　兄さも、大きくなったら都に住むのか？
ゆき　ううん。俺は親父の仕事を継いで、炭焼きを続けるから。
かぐや　兄さの欲しい物は何じゃ？
しんざ　うーん。・・金や銀のなる木が欲しいな。
かぐや　そんなのあるの？
ゆき　あるよー。都には金や銀だけじゃなくて、もっとすごい宝物もあるんだから。
かぐや　じゃあ、兄さには宝物のなる枝！
しんざ　ありがと。
・下手よりしんざの父親が登場。
父　おーい。しんざ。ここにおったか。間におうて良かったわ。
しんざ　あっ。親父。どうしたの？
父　・・・・弁当忘れていっとるじゃろ。
ゆき　あっ、兄さ忘れちった。
父　しょうがないの。
かぐや　よぉ、親父様。
父　おぉ。かぐやはいつも元気じゃの。
かぐや　親父様も元気じゃの。
父　じじとばばは元気か？
かぐや　朝から晩まで跳ねまわっとる。
父　そうかそうか。・・・おっ。燕じゃ。気持ちよさそうに飛んどるわい。
かぐや　ねえゆき。燕さんも、宝物持ってるかな？
ゆき　都の燕さんだったら、きっと持ってるよ。・・じゃあそれも、おらが持ってきてあげるね。
かぐや・ゆき　うふふふふ。
父　何の話じゃ？
しんざ　都には何でもあるって話だよ。

父　そうじゃな。・・・でも都は恐いところじゃからな。じゃ、わし帰るわ。
しんざ　うん。気を付けてね。
父　気をつけて行くのは、都に行くお前たちじゃよ。
ゆき　兄さがいるから大丈夫じゃ。
父　ゆきは兄さっ子だもんな。
かぐや　気いつけてなー。
父　おーう。
かぐや　・父は去る。
ゆき　親父様は、いつも優しいのう。
かぐや　おら大好きじゃ。
ゆき　うちのじじやばばとは大違いじゃ。
かぐや・ゆき　おらもそう思う。
しんざ　ひゃはははは。
ゆき　こらこら、さっ、ゆき。そろそろ都に行こうか、早く行かないと、帰る頃には日が暮れちゃうからな。
かぐや　かぐや、行ってくんねー。
ゆき　おー、行ってこーい。気ーつけてなー。
かぐや　・「しんざ」と「ゆき」は去る。「かぐや」は筍を入れた籠を背負い、身支度をしながら独り言を言っている。やがて、行きかけるが、途中で道端に落ちている何かに気づく。
かぐや　何だろ？・・（拾い、開ける）うわぁー。きれい。

・舞台は暗転。狂言回しが登場。

狂言まわし　このときかぐやの拾いし宝物、それは大層すばらしい物でございました。美しい織物やら鏡やら、金や銀や真珠やら、ありとあらゆる種類の宝が入っておったのでございます。そんな大層な物とはつゆ知らず、これによって大きく変わってしまった己の運命にも全く気づかず、筍と一緒に籠に詰め、蝶を追い追い花を詰み、チョコチョコと遊びながら家に帰ったのでございます。

じじ・ばば　・舞台は元の家に戻り、「じじ」・「ばば」・「かぐや」が舞台中央にいる。
ばば　なんじゃあ！こりゃ。
じじ　宝じゃ！
ばば　これはすごい！　かっ、かぐや、これ、ど、どうしたんじゃ。
かぐや　拾った～。
じじ　ど、どこで！
かぐや　竹藪～。
ばば　帰り道、他の奴に見られとらんじゃろうな。
かぐや　一人だったよ。
・「じじ」と「ばば」家の回りを確認し、戸締まりして舞台中央へ戻る。
じじ　ちゅ～ことは、これ全部、わしらのもんか？
じじ・ばば　（顔を見合わせるて、満面の笑み）
ばば　金じゃ。銀じゃ。
かぐや　反物、鏡じゃ。
じじ　鹿の角じゃ。
ばば　馬鹿もん。もったいないことするでないわ。
じじ　しかし、落とした奴も馬鹿じゃのう。
ばば　これ、どうするかの。
じじ　まずな。新しい着物を買うんじゃ。
ばば　うまい飯がたらふく食えるぞ。
じじ・ばば　高く売れたら、家を建て替えられるぞ。
かぐや　楽しみじゃのぉ
ばば　じゃあ、わし売られんでいいのか？
じじ　馬鹿言うでない。家がでかくなれば、それだけ高く買ってもらえるというもんじゃ。
かぐや　じゃあ、やっぱり売られるんだ。
ばば　そうじゃ。お前はわしらの宝物じゃ。
じじ　大事な大事な宝物じゃ。
かぐや　そっか。宝物か。じじ、ばば、これからもわしを大切にせえよ。

三人

しんざ　ぎゃはははは。

ゆき　・舞台は暗転。花道に「しんざ」と「ゆき」が登場。

しんざ　こら、ゆき。走るとあぶないぞ。

ゆき　兄さ、これ走るとクルクルまわるんじゃ。

しんざ　ゆきは、そんなにこれがめずらしいのか？

ゆき　うん。おら都にこんなものがあるなんて、ちぃーっとも知らんかった。都って、本当に何でもあって、すごいところだね。

しんざ　ああ、そうだね。

ゆき　大きな家がいっぱいあって、みんなきれいな着物着てて・・・。おら、大きくなったら、絶対都に住む。

しんざ　きっと住めるよ。

ゆき　都に行ったら長者様になって、兄さたちに楽させてやるんだ。

しんざ　ははは、ありがとう。ゆき。今日は何が楽しかった？

ゆき　えーと、お昼に食べた弁当と・・・あと兄さが買ってくれた飴。

しんざ　ゆき、目、つぶって口あけてごらん。

ゆき　あーん、・・ん？甘い！　兄さ自分の食べなかったのか？

しんざ　うん。ゆきの方がおいしそうに食べるから。

ゆき　兄さは優しいから、おら大好きじゃ。じゃあ、兄さにはこれ。

しんざ　いいよ。気にいってんだろ。

ゆき　でも兄さ、持っとらんじゃろ。

しんざ　うん、でもゆきの方が楽しそうに遊ぶからな。

ゆき　そっか。やっぱり兄さは優しいのぉ。あ、そういえば、これくれたおじさんも優しかったね。

しんざ　うん、ゆきのことも気に入ってたみたいだし、今度、親父も連れて来てくれって言ってたね。

ゆき　じゃあ、また都に行けるんだ。楽しみじゃあ。

しんざ　ははは・・・、都のことはまたあとにして、そろそろ帰

ろうか。

ゆき　うん、日が暮れてきちゃった。

狂言まわし　・二人は去る。代わって狂言回しが登場。

かぐやの拾ってきた金銀財宝。これが非常な高値で売れ、じじとばばは、あっというまに長者様。ばばは新しい着物を買い、じじはうまい物をたらふく食い、あの汚かったぼろ屋を取り壊し、新しくそれはそれは大きく美しい家を建てたのでございます。

・舞台上は家が豪華になっている。「じじ」と「ばば」が豪華な衣裳で登場。

じじ　ばば、なかなか似合っとるぞ。

ばば　じじもお公家様のようであるなり。

じじ　ほうか？　麿は嬉しいでおじゃる！

ばば　ワハハハハ。

じじ・ばば　これな！　（持っていた扇子を床に落とす）誰かおらんかえ。

女中　・女中が登場。

ばば　お呼びですか。

じじ・ばば　ひろえ！

じじ　ダーッハッハッハッハー！！

じじ・ばば　こりゃ、ばば。かわいそうなことを言ってやるな。なあ。（女中の肩に手を置いて）　お手。

じじ　ナーッハッハッハッハー！！

ばば　・女中は去る。

じじ　でもな。広い家じゃのう。

ばば　そうじゃの。仕事もせんでええし・・・

じじ・ばば　なあ。ダハハハハハハハハ・・・・

ばば　これもかぐやのおかげじゃ。

じじ　ふふ、拾ってきたのは、このわしじゃ。

ばば　育てたんは、このわしじゃ。売って金儲けしようと言っ

じじ　たのも、このわしじゃ。・・・あとは仕上げに高う売れれば・・・
じじ・ばば　な、ダハハハハハハハハ・・・・・
じじ　・しんざが登場。
しんざ　しんざ、どうしたんじゃ。
じじ　・・・でっかい、家だな・・・
ばば　お？そうか？
しんざ　かぐやと遊びに来たんか？
ばば　・・いや、・・たまたま、通っただけだから・・。
じじ　そうか。
しんざ　ゆきはどうした？
ばば　・・親父と、都に行った・・。
じじ　都か、この前も行っとったのお。
しんざ　お前は行かんのか？
ばば　・・行きたく、なかったから・・・。
しんざ　まあ疲れるからの。
ばば　・・・うん・・・それじゃ。・・・・
じじ　あ、ああ。親父さんによろしくな。
ばば　・・・そういえば、またかぐやがおらんのじゃ。
じじ　なに？またか？
ばば　・じじとばばは話を続けているが、やがて立ち止まって
　いるしんざに気づき。
じじ　？。どうした、しんざ。
ばば　・父親が登場。
父　おお、親父どの。
じじ・ばば　今帰りか。
しんざ　・・・・・・・
父　？
じじ　どうだった。
しんざ　・・・高う、買うてもろうた、・・・すまんかったな。
父　謝るなら、ゆきに言ってくれ。
しんざ　？？？？
じじ・ばば　ゆきは？
ばば　都じゃ。

父　・父親は去る。
じじ　しんざ、ゆきはどうしたんじゃ。
しんざ　売られたんだ。
ばば　じゃあ、今その帰りか。
しんざ　うん・・。
ばば　ほうか、でも暮らしは随分楽になるじゃろ。
しんざ　でも・・。
じじ　いやぁ、それにしてもゆきはえらいのぉ。
しんざ　えらい？
じじ　そうじゃ。ゆきは、親孝行もんじゃ。
ばば　親のために売られていく。それが子供の務めじゃ。
じじ　今まで育ててもらったんじゃからな。育ててもらった恩返しじゃ。
しんざ　・・そういうもんかな。
ばば　そういうもんじゃよ。
かぐや　・かぐやが登場。
しんざ　あ、兄さー。
かぐや　かぐや・・・
しんざ　ゆき、知らんか？どこにもおらんのじゃ。
かぐや　ゆきはな、都に行ったんじゃ。
じじ　そっか、いつ帰ってくる？
ばば　もう帰ってこんのじゃ。
かぐや　？・・・なんでじゃ？
しんざ　・・・・・・。
かぐや　じゃ、兄さ遊ぼ。
しんざ　・・・今日は、駄目だ。
かぐや　どうして？
しんざ　今日は駄目だ！！
かぐや　・しんざは去る。
じじ　・・変な兄さ。
ばば　・かぐやは、家の奥へ行こうとするが、じじとばばが行く手をふさぐ。
　勝手に外に出るなと言ったじゃろ。
　ん？買ってやった着物はどうした。

かぐや　動きにくいから、嫌じゃ。
ばば　着物は捨てるし、勝手に外には出るし・・・、もう今日は飯抜きじゃ。
かぐや　あう。・・もう食ったからええ。
じじ　何？　どこで？
かぐや　（家の奥の方を指差し）あっちー。
じじ　わしらの飯を食ったんか。
ばば　つまみ食いはするなと言ったじゃろ。
かぐや　疲れたから寝る。
・かぐやはその場に寝てしまう。
ばば　寝るな！！
じじ　・・・なんてアホな奴じゃ・・・
ばば　このままじゃどうしようもないわい。
かぐや　（寝言で）ウフフフフフフフフ・・・
じじ・ばば　（びっくりしてかぐやを見る。）
かぐや　ウフフフフ・・・。（ずっと不気味に笑っている。）
じじ　何じゃ、寝言か。
ばば　・・・しかし、これでは売れんぞ。
じじ　ああ。
・ばばがかぐやの足の裏を拭く。
かぐや　ウキャキャキャ・・・。
じじ　・・・わしなら買わんな。
・舞台は暗転。狂言まわしが登場。
狂言まわし　このような次第で、かぐやの元には先生方が呼ばれました。もちろん事は内密に行われ、数日の後、かぐやの家にやってまいったというわけでございます。
・舞台上には単サスでエリアが３つ作ってあり、中央には「かぐや」。上手側と下手側は交互に「先生」が入る。
・中央と上手側の単サスがつく。

先生１　さあ、お食事の時間ですよ。まずはお芋からお上がりください。
かぐや　お芋すきー。（手掴みで食べ始める）
先生１　かぐや様。お箸を使って。
かぐや　（食べながらブツブツ独り言）
先生１　かぐや様！・・・使い方が違いますよ。
かぐや　（箸を頭の上にやって）牛ー。
先生１　・・・・使い方が違いますよ。
かぐや　ねえねえ～。
先生１　何ですかそれ・・・。
かぐや　おにー！！
先生１　『ばき』（箸を折る）
・上手側の単サスが消え、下手側と中央の単サスがつく。
先生２　かぐや様。和歌というものを知っていますか？
かぐや　は？
先生２　和歌とは、季節の風景や恋心を七五調にのせてよむのです。私が一つ詠んでみましょう。「みかのはら　わきて流るる　泉川　いつ見きとてか　恋しかるらむ」
かぐや　わはははは・・。　何言ってるか、わかんない。
先生２　それではかぐや様には、まず和歌になれていただきます。これから私とは、和歌で会話する事にしましょう。
かぐや　『かぐやさま　簡単だから　やってごらん』
先生２　うひゃひゃひゃ・・。　わけわからん。
かぐや　『ちゃんとして　あなたのために　やってるの　あなたがやらなきゃ　私空しい』
先生２　なんか。もう、つまらんくなってきた。
かぐや　『かぐや様　あなたどういう　つもりなの』
先生２　つまんない　つまんないったら　つまんない。
かぐや　『かぐや様　やればできるわ　できたわよ　今の七五になっていたわよ』
先生２　ねぇ。楽しい？
・・・、楽しいです！
・下手側の単サスが消え、上手側と中央の単サスがつ

先生3　く。
先生3　（先生は、眠そう。）それでは、今日は平仮名でも書いてみましょうか。初めは・・そうねえ、かぐやの『か』から。
かぐや　（汚いながら字を書きつつ）かー。
先生3　次にかぐやの『ぐ』ー。（半分寝てしまう）
かぐや　ぐー。　できた。ねぇ、できた。
先生3　（気づいて）えっ、はい、それじゃあ、押さえて、跳ねて、長く長く伸ばして、右に引っ張って、まぁるく戻って、眠りましょう。
・先生3のセリフに合せ、かぐやも字を書いているが、やがて2人ともに、転がって寝てしまう。

狂言まわし　・舞台上は暗転。狂言回しが登場。
じじとばばに呼ばれた先生方は、それはそれは教養深いお方ばかりでございましたが、来たその日のうちに一人消え、二人消え・・・と、ついにみな都に帰ってしまいました。たいていの者は、かぐやの性格にふりまわされて、都に帰った後も呆けておったそうにございます。さて、竹の下で好運を拾ったじじとばば。そのぼろ屋が大きく美しい屋敷に変わったという話は、人から人へ恐ろしく速く伝わっていったのでございます。その話も、どんどんと変わっていき、噂となっていきました。

村人1　・下手の単サスがつくと、エリアの中で村人達が噂話をしている。かぐやもその中にいる。
村人2　竹取りの翁んとこの話。知っとるか？
村人3　ああ。なんでも竹林で子供を拾って、
村人4　今度はその子が竹林で宝を拾って、
村人5　今じゃあんなに大金持ち、
村人4　まるで夢のような話じゃ。
村人3　その子はどのような姿をしとるんかの？
村人2　屋敷があれだけ美しいんじゃ。

村人2　きっと美しいにきまっとる。
村人1　名前は何と言ったかの？
村人5　か・・・か・・・。
かぐや　『かぐや』だよ。
村人2　おおそうじゃ。かぐやじゃ。
全員　かぐや姫じゃ！
・下手の単サスが消え、続いて中央の単サスがつくと、エリアの中で村人達が噂話をしており、かぐやもその中にいる。
村人6　向こうの山の奥深く、美しい姫がすんどるそうな。
村人7　ああ、かぐや姫じゃな。
村人8　なんでも光輝く竹から生まれ、・・
村人9　天女のように空を舞い。
村人6　そのあまりの美しさに、目をつぶした者もおるそうじゃ。
かぐや　わし見ると目がつぶれるんか？
村人7　（かぐやに気づき）なんじゃ、お前は。
村人8　お前をみとると、目じゃなくて、鼻がつぶれるわ。
村人9　あっちいけ、しっしっ。
村人6　ああ、噂のかぐや姫。
全員　一目見てみたいものじゃのう。
・中央の単サスが消え、続いて上手の単サスのエリアがつくと、エリアの中で村人達が噂話をしている。かぐやは聞いている。
四人　はっはっは。
村人1　かぐやの噂はそんなものではない。
村人2　そうなんか。
村人3　竹から産まれたなどは当たり前。
村人1　筍を金に変えるそうじゃ。
村人2　いや、あらゆる動物に姿を変えると聞いたが。
村人1　雷を落とすんじゃろ、こうズドーンと。
村人3　それだけではない、何でも嵐を呼んで、
村人4　海を裂き。
村人1　姫が眠ると日は沈み。

	そして満月の夜には、
	化け物になる！
全員	何を言うておる。かぐや姫は神様なんじゃ。
	そうじゃ、かぐやは、神様じゃ！　アハハハハハ・・。
	・単サスが消え、舞台は暗転。照明がつくと舞台は宮中の風景になっている。女官達が噂話をしている。
女官①②③	オーホホホホホ・・。
女官④	ここは宮中ですぞ。女官が高笑いなど、はしたない。
女官①	ですが、かぐや姫が竹から生まれたなどとは。
②	それではまるで、竹の子ではございませんか。
④	ですが、私はそうお聞きしたのでございます。
④	よいですか。かぐや姫は梅から生まれたのです。
③	私は天から降ってきたのだと・・・。
①	土に生えていたのです。こんな風に・・・。
②	ホホホホ、そちらのお噂も、まるでおとぎ話のようでは
④	ございませぬか。
	竹の子に言われたくないですわ。
	私が竹の子！？
	ならばそなたは梅の種。
	シワシワの奴ですね。
①	まあまあ、そもそもかぐや姫のお噂は、嘘とも真実(まこと)とも
④	つかぬものばかり。
②	ただ分かっているのは、
④	玉のように美しく
③	あらゆるものに富を与えるというだけ。
②	まあそれだけ分かっていれば、石作皇子(いしづくりのみこ)様が娶るのにふ
①	さわしい女子でございましょう。
	まあ、また石作皇子様ですか。
女官②	お手の早いことで。
③	あの方はいつもそう言ってたくさんの女を娶っていらっ
④	しゃる。
女官②③④	助平ですわ。

女官①	それは皇子様の男としての魅力ゆえ。女に相手にされぬ
	ような安倍右大臣(あべのうだいじん)様とは違います。
女官②	失礼な。右大臣様はおつとめに一生懸命で、女にうつつ
	をぬかしている暇などないのです。公家とは本来そうい
	うものなのです。
女官③	まあ、中には歌を詠むしか能のない、うらなり貴族もい
	らっしゃるようですけど。
女官④	大納言様は都でも一、二を争う名歌人。それを『うらな
	り貴族』とは失礼な。
①	あら違うのですか？
②	そのようにしか見えませんけど。
③	それに比べて、私のお仕えする車持参議(くらもちのさんぎ)様は・・。
②	太っているだけで・・。
④	成り上がりの・・。
①	田舎貴族でございましょう。
女官達	（お互いにののしり会う。）
	・局が登場。
局	騒々しい！
	（四人とも、ひれ伏す。）
女官達	まもなく公家のみなさまがお戻りになられます。早く支
局	度でもなさい。
	はい。
女官達	・局は去る。
	いつもいつも、口うるさいお方だこと。
女官④	これだから、お年をめされた方は。
③	しわと小言が同じ数。
①	・公家達が登場。
三人	お帰りなされませ。
右大臣	うむ。
皇子	おやおや、かわいい女が三人も。
参議	皇子殿。我らの女官には手は出さぬと約束したであろ
	う。
大納言	先ほどの話の続きが先じゃ。
皇子	おお、そうであった。

公家達　はあ。
　・公家達のため息の後、ストップモーション。狂言まわしが登場し、公家達の紹介をする。
狂言まわし　ここにおる4人の公家、こちらが安部右大臣、石作皇子、大納言、そして車持参議でございまする。
　・紹介が終わると、狂言回しは去る。
女官②　謁見の首尾は、いかようでございましたか？
大納言　それが帝の御機嫌を少々損ねてしもうての。
女官③　なぜ、そのようなことに？
皇子　そちら、かぐや姫なる女子(おなご)の噂、聞いておるかえ？
女官①　は、『かぐや姫』で、ございますか？
大納言　最近都中で評判じゃが、誰一人その姿を見たものはおらんのじゃ。
皇子　帝のお耳にも届いておっての。我らにお尋ね遊ばされたのじゃが、皆申し上げる事が、てんでばらばら。
右大臣　そこで、そちらに尋ねたのじゃが。
女官①　生憎ではございますが、私めどもの間でも、嘘とも真実(まこと)ともつかぬ噂ばかり。
　②　お役に立てそうもありません。
参議　さようか。
女官達　申し訳ございません。
参議　まあ良い。そちらは先にさがるが良い。
女官③　はい。では失礼させていただきます。
　・女官達は去る。
皇子　さてさて、かぐや姫か。
右大臣　どのような美しい女子であろうかのう。
大納言　ひと目お会いしてみたいものよなぁ、・・・ぁ。（ふらっと倒れる）
参議　おお。大納言殿。大丈夫でおじゃるか？（あわてて抱き起こす）
皇子　また発作でおじゃるか？
大納言　面目ない。かぐや姫の事を思うと、つい、ぽーっとなってしまうのでおじゃる。
参議　ふむ。しかし、噂はどこまで真実であろうかのう？

大納言　竹から生まれたという噂じゃぞ。
皇子　さわった物を金に変えるという話じゃ。
参議　熊と力比べをするという噂では？
右大臣　亀を助けて財宝を手にいれたと聞きましたぞ。
　・一同、しばし沈黙。
参議　これでは帝がお怒りになるのも、ごもっともじゃのう。
皇子　む。む・む・む・む。ここはひとつ、私がこの目で確かめてこようぞ。（嬉しそうに立ち上がる）
大納言　待たれよ。皇子殿。
皇子　何かな？
大納言　確かめた後、どうなさるおつもりで？
皇子　ほーっほほほ。何を当たり前な事を。私の愛にかなうような女子ならば、妻として喜んで迎え入れようぞ。
右大臣　皇子殿！
皇子　何でおじゃるか？
右大臣　抜け駆けは、ちとずるいのではおじゃらぬか？
参議　そうでおじゃる。皇子殿は卑怯でおじゃる。
右大臣　助平でおじゃる。
参議　阿呆でおじゃる。
皇子　よ・よ・よ。何もそこまで・・。（泣き崩れる）
参議　少々言い過ぎたでおじゃるかの。
大納言　御三方おやめなされ。宮中でおじゃるぞ。はしたない。
皇子　・・おお。これは失礼を。
参議　大納言殿は、いかがなさるおつもりか？
大納言　（すまして）麿はそのような、どこの馬の骨とも分からぬ女に興味はない。
参議　さようか。では3人で勝負と相成りますな。
大納言　ほへ？
参議　噂はともかく、かぐやの家の財産は相当なもの。かぐやが美しいとなれば、なおのことよろしい。引き下がる手はありますまい。
大納言　何という・・・（絶句）。
皇子　そうと分からば、ここでうかうかしてはいられませんのう。

右大臣　まあ、結果は分かっておりますがねぇ。
参議　私がかぐやを手に入れると？
三人　ほーっほっほっほっ・・・。
大納言　・皇子、右大臣、参議は去る。
何と・・・。御三方がかぐやをねろうておるとは。麿も、うかうかしてはおられぬ。（立つが）あっ。めまいが・・・。（ふらっと倒れる）
・舞台は暗転。狂言回しが出てくる。
狂言まわし　人の噂は恐いもの。一つの偶然で、好運を手にしたかぐやの評判は、野を越え山を越え、風に乗ってまったく間に四方八方へ広がり、かくのごとき公卿の耳にまで届くに至ったのでございます。（ハリセン）
さて、４人の公家達は、かぐやの顔を一目見ようとしましたが、果たせず。果たせずとあらば、見てみたい気持ちは日毎に募り、ついにはかぐやへの求婚という形に相成りましてございます。
・照明がつくと、舞台上はかぐやの家。公家達が座っている。
皇子・他　ほっほっほっ・・・。
皇子　おや。大納言殿は『興味がない』とおっしゃっておったのに、ずいぶんな御心変わりのご様子。
大納言　なに。麿は噂のかぐや姫とやらが、どれほどのものか見ておこうと思い参ったまで。
参議　ほお。その割にはずいぶんな贈り物をなさったと聞き及びまするぞ。
皇子・他　ほーっほっほっほ。
・舞台袖付近より屏風越しに、「じじ」と「ばば」が登場。
じじ　おお・・・公家の方がおみえじゃ。
ばば　これでわしらも・・・

かぐや　・かぐやが、「じじ」「ばば」の側へ登場。
ばば　ばば。誰？
かぐや　お前の結婚相手じゃよ。お前ははよ支度せえ。
ばば　はーい。
・かぐやは去る。
（突然気づいた様子で）じじ。　かぐやを御公家様の前に出すという事は・・・。
じじ　あの顔にあの言葉！
ばば　どうにか誤魔化す手だてはないもんかのう。
右大臣　これ。かぐやはまだか。
ばば　はーい。ただ今！
じじ　とりあえず、わしらが出るしかないじゃろ。
・「じじ」と「ばば」は、公家達の前へ出る。
じじ　これはこれは、ようこそおいでくださいました。
公家達　うむ。
ばば　・・え・・それで・・
皇子　まず尋ねたい。姫が竹から生まれたというのは、真実であるかな？
じじ　・・え、あ、はい。もちろんでございます。
公家達　（口々に）何と、噂は真実であったか・・・・。
右大臣　して、かぐやは？
ばば　・・・は、はい。ただいま。　これ。かぐやー。
かぐや　あーいー。
・つけ木の音とともに、かぐやが中央へ出て座る。顔は伏している。
ばば　かぐやにございまする。
参議　顔を見せてはくださらぬのか？
ばば　これかぐや、公家の方々に挨拶せいや。
かぐや　（顔を起こして）かぐやじゃ。
・公家の４人は、かぐやを見る。一同に驚き、困惑、確認、動揺している。
大納言　（倒れる）・・・う、美しい・・・。
公家３人　はぁ？
大納言　・・これ程までに美しいとは・・・。

皇子　・・・おお。そうじゃ。美しい・・・

右大臣　・3人の公家は、つられて口々に『美しい』を連発。

参議　竹取りの翁とやら、ぜひ姫を麿のもとへ。

皇子　おっと姫は麿が。公家の位が欲しくはないか？　望み通りとらせようぞ。

大納言　いや、姫は麿が。帝の血をひく麿に、何の不満があらりょうか。

参議　姫。麿の元へ・・。

大納言　馬鹿たれ。姫は麿のものじゃ。

皇子　馬鹿たれとは何じゃ。

・一同、騒然とする。

皇子　待たれよ。　これでは公家というものの、品位に関わる。どうじゃ。ここは姫の欲しいものを真っ先にさしあげたものが、姫を貰い受けるということでは。

右大臣　ほー。それは良い。では姫、欲しいものを何なりと申されよ。

かぐや　欲しいもの？　うーん、あ、大仏様の茶碗！それに、火にも負けないネズミさん。あと、宝物のなる枝。

じじ　かぐやっ。なに言っとるんじゃ。

ばば　そんな訳のわからんものを・・・・。

大納言　いや。分かりまするぞ。・・・・大仏様の茶碗、なるほど、天竺の宝、『仏の御鉢』の事ですな。よろしい、持って参ろう。

参議　なるほど。では麿は火にも負けぬネズミ、すなわち火ネズミの皮じゃな。それを持って参ろうではないか。

皇子　では麿は『宝のなる枝』・・・おお、そうか。蓬莱という島には、美しき珠のなる木があると聞く。よし、私はそれを。

右大臣　では、麿は何を？

かぐや　んーんとねー。燕さんの・・宝物！

右大臣　は？・・・なるほど、あとは自分で考えよというわけですな。分かり申した。必ずや持って参じましょうぞ。

かぐや　がんばれー！

公家４人　心得た！

じじ　・公家４人、急ぎ足で威厳をもって去る。

ばば　（ぼーっとして）行ってしまわれた。あんな聞いた事もない宝なぞ・・・見つかるわけがあるまいに・・。

じじ　んなら公家の方々は、

ばば　もう戻ってこんじゃろう。

じじ　まあ、待て、ばば。かぐやにも何か考えがあるに違いない。な。かぐや？

かぐや　（「じじ」「ばば」の側に来て）何もない。

じじ・ばば　・・・・・。

狂言まわし　・舞台は暗転。狂言回しが出てくる。

噂のかぐや姫に4人の公家達が求婚したという話は、瞬く間に都中に伝わり、人々の興味は誰が姫の願いのものをしつらえるか。集まってはその話題で、もちきりでございました。

村人１　・上手の単サスがつくと、エリアの中で村人達が噂話をしている。「しんざ」もその中にいる。

２　いやぁ、石作皇子様も、ほんにお気の毒じゃのう。

しんざ　そこまでしてかぐや姫と結婚したかったんかのぉ。

村人１　あの、皇子様！？　どういう話ですか？

しんざ　なんじゃ、おまえは？

村人１　教えてください。

２　あ・・ああ。かぐや姫に言われて宝を取りにいった石作皇子様は『仏の御石の鉢』を取ると言って・・。

しんざ　大仏様を壊そうとして捕らえられたそうじゃ。

村人３　じゃあ結婚は？

村人１　できるわけなかろう。

・「しんざ」は、これを聞いて嬉しそうに去る。

なんとも、おろかしいことよのぉ・・・あれ？おらん。

・上手の単サスが消え、続いて中央の単サスがつくと、

エリアの中で村人達が噂話をしている。「しんざ」もその中にいる。

村人4　阿倍右大臣（あべのうだいじん）？

しんざ　はい。

村人5　あの方は何でも、『つばくらめの子安貝』を取ると言って・・・。

6　梯子に自分で登ったところ・・・。

4　足を踏み外して腰をうって・・・。

5　おまけに糞までかけられて・・・。

4　しばらく屋敷からは出られんそうな。

しんざ　・・・で、ほかには？

村人4　ああ、『火鼠の皮』を取ってこいと言われた車持参議（くらもちのさんぎ）様は・・・。

6　都中の鼠をかり集めたまでは良かったんじゃが・・・。

5　鼠にかじられ屋敷も倉もボロボロに・・・。

しんざ　結局『火鼠』は？

村人4　そんなもんそこら辺におるわけ無かろう。

5　おったらわしらが捕まえとるわ

村人一同　（笑う。）

・中央の単サスが消え、下手の単サスがつくと、エリアの中で村人達が噂話をしている。「しんざ」もその中にいる。

村人7　おおしんざ。都はどうじゃった。

しんざ　うん。お公家様の話ばっかりだった。

村人8　わしらも今、その話をしとったんじゃ。

しんざ　え？　どんな話？

村人7　ああ。『蓬莱の玉の枝』とかいう宝のなる木を頼まれた大伴大納言（おおとものだいなごん）殿は家中の宝を集めて庭に埋めて・・・。

10　水をやって育てておるという話じゃ。

しんざ　じゃあ当分来れないんだ。

村人9　当分どころか、そんな木が生えるわけ無かろう。

10　それに宝は誰かに掘り起こされ、持っていかれたという話じゃ。アハハハハハ。

11　しかし、かぐや姫はすごいのぉ。

8　あれだけのお公家様を手玉に取るなんて賢いお方じゃ。

10　やはりわしらとは違うのぉ。

7　当たり前じゃ。お主と姫とじゃ月とすっぽん。

9　わし、すっぽんか？

11　姫が月なんじゃ。しょうがなかろう。

村人9　それもそうじゃの。あはははは・・・（村人去る）

しんざ　そっか。全部断ったんだ。そっか・・・。

・下手の単サスは消える。

・中央の単サスがつくと山中の雰囲気。「かぐや」が中央にいる。そこへ、「しんざ」が登場。

かぐや　あ。兄さ。

・舞台照明が全てつく。

しんざ　かぐや。お公家様との話、みんな断ったんだってな。

かぐや　うん。みんな来なくなっちゃった。

しんざ　そうか。じじとばばはどうしてる？

かぐや　ん？朝、泣きながら飯食っとった。

しんざ　今は？

かぐや　喧嘩しとる。

しんざ　そっか。

かぐや　兄さ、わし外に出るのは久しぶりじゃ。

しんざ　ずっと屋敷の中だったもんな。でも、これからはずっと外で遊べるんだ。

かぐや　筍採りもできるんか？

しんざ　もちろん。明日の朝採りに行こうな。

二人　ははははは・・・。

しんざ　でも良かったな。

かぐや　何が？

しんざ　売られなくって良かったってことだよ。

かぐや　何で？

しんざ　何でって・・・売られなくても済むんだぞ。

かぐや　うん。

しんざ　・・・お前・・・。

かぐや　なんじゃ、兄さ？
しんざ　かぐや。　売られるって、どういうことか、分かってるのか。
かぐや　うん。わしが売られて、じじとばばがお金貰えて、そんで、みんな幸せになる。
しんざ　本当にそう思ってるのか？
かぐや　じじとばばは、いつもそう言っとる。
しんざ　そんなの間違ってる。いいか、かぐや、自分の事は自分で決めるんだ。
かぐや　じゃあ、売られるってどういうことじゃ？
しんざ　今日都に行って、ゆきを見てきた。働いてたけど笑ってなかった。いつもにこにこしてたのに・・・。それにだいぶ痩せたみたいだった。食事もろくにもらえないのに、無理矢理働かされてるんだ。
かぐや　・・・わしもそうなるんか？
しんざ　うん。
かぐや　全然じじとばばが言ってる事と違うぞ。
しんざ　そうだよ。お前はだまされていたんだ。
かぐや　そうなんか？・・・・。
しんざ　ああ、このままここにいたら、いつか売られちゃうぞ。
かぐや　じゃあ、わしどうすればいい？
しんざ　ここから逃げるんだ。　遠いところへ。
かぐや　遠い？兄さの家よりも？
しんざ　ああ。
かぐや　そんな遠くははじめてじゃ。楽しみじゃなぁ。
しんざ　早いほうがいい。今夜迎えに行くから、じじとばばには気づかれないようにしろよ。
かぐや　ほえ？
じじ・ばば　かぐやー！　かぐやーー！！
・「じじ」と「ばば」が登場。
ばば　帝じゃ！。明日の晩、帝にお会いするんじゃ。
しんざ　帝？
じじ　そうじゃ。明日の十五夜の晩、帝がお忍びでいらっしゃるんじゃ。さ、行くぞ。

かぐや　嫌じゃ。
ばば　わしらは、この為にお前を育ててきたんじゃ。
かぐや　じじとばばは嘘つきじゃ！
じじ　何を訳のわからんことを、ほら行くぞ。
・「じじ」は「かぐや」を連れて去る。
しんざ　かぐや・・・。
ばば　おまえか！　かぐやにいらんことを吹きこんどるのは！
しんざ　おれは・・・。
ばば　もうよい！。かぐやにはもう近づかんでくれ。かぐやは姫様になるんじゃからのう。
・「ばば」は去る。
しんざ　そんな・・・・。
・舞台は暗転。狂言回しが登場。
狂言まわし　とうとう今日は十五夜。かぐやの家では帝を迎えるという事で、その支度に屋敷内はおおわらわでございます。
・照明がつくと、村人達が準備の手伝いをしている。会話をしている村人以外にも、調度品などを持った他の村人等が右往左往している。
村人1　わしらは、帝にあえるんかの？
村人2　あえるわけなかろう。お忍びでいらっしゃるんじゃ。
村人3　それよりわしは、かぐや姫にあいたいのう。
じじ　そうじゃ、この屋敷におるんじゃろ？
・・一目見てみたいのぉ。
ばば　・「じじ」と「ばば」が登場。
じじ　これ、そこ！　怠けるでない。
ばば　急いで支度せい。間にあわんぞ。
じじ　まあ落ち着きなされ。
お前ら落ち着きすぎじゃあ！！
・子ども達が大騒ぎで舞台へ登場。
ばば　ああー！！　向こうへ行かんか。
じじ　こんなとこで遊ぶでない。

ばば　・子供達は去る。
村人達　まったく、始末の悪いガキどもじゃ。お前達の子か！？
じじ　（首を振り、否定する。）
村人１　まったく。しょうがないのぉ。
　お前さんらこそ、姫の支度はせんでええんか？わしらは
　やれとは言われとらんぞ。
じじ　姫？　あっ、かぐや。忘れとったわ。
ばば　どこにおるんじゃ。かぐやーー。かぐやーー。
村人２　慌ただしいのぉ。
　ほんになぁ。
ばば　働かんかあ！
３　はい！
村人達　・村人達は散る。「じじ」「ばば」は去り、入れ違いに
　「かぐや」が登場。
村人４　これ、お前。汚い足で上がるでない！
５　外へ下りとれ。
かぐや　あい。
村人５　誰じゃあの汚いのは？
４　さあ。知らんなあ。
　・「しんざ」が登場。
しんざ　・・あ！・・・かぐや！
かぐや　あ、兄さ。
しんざ　かぐや。今しかない。
かぐや　え？
しんざ　俺と一緒に逃げるんだ！　・・・はやく！
かぐや　でもじじとばばが、・・・。
しんざ　行こう。
じじ・ばば　・「しんざ」は「かぐや」の手を取り、二人は去る。
　かぐやー。かぐやー。
　・「じじ」と「ばば」が登場。
じじ　・・おらん！・・何処にもおらんぞ！
ばば　落ち着け、じじ。
じじ　落ち着けるか。わしら、帝に、帝に、怒られるかのぉ。
ばば　そりゃ怒られるじゃろ。

じじ　軽く言うな。お前が悪いんじゃぞ。
ばば　な・・・わしのせいにするんか。お前が目ぇはなしたん
　じゃろ。
じじ　お前が自分の事ばっかり・・・
　・しんざの父が登場。
父　あのお二人さん・・・
二人　なんじゃ！
父　い、や、・・・うちのせがれをしらんかと・・。
ばば　知るか。
じじ　今はそれどころじゃないんじゃ。
父　いつも一緒じゃったから、ここかと思ったんじゃが・・
　・。
じじ・ばば　ん？
父　いやだから、いつも一緒だっ・・・。
三人　・・・・。
ばば　なあ、じじ。
じじ　ああ。いつも一緒だったなら・・。
ばば　ひょっとして今も一緒かも。
父　まさか、せがれがかぐやを？・・・
ばば　そうじゃ、そうに決まっとる。
じじ　お前。責任をとれ。
父　は？
じじ　お前がかぐやの代わりになるんじゃ！
ばば　わしが帝と結婚するんか？
　無茶を言うな。落ち着いて何とかごまかす方法を考える
　んじゃ。
じじ　ごまかすったって、相手は帝ぞ？
父　探しに行ったほうがええんじゃ？
ばば　どこにおるかわからんじゃろ。
じじ　でも、近くに隠れとったら。
ばば　そんな希望は捨てろ。
　・武士達が登場。
武士１　そなた達か。かぐや姫の育ての親は。
じじ　そうじゃよ。

ばば　後にしとくれ。
武士2　何と無礼な。
ばば　かぐやは今おらんのじゃ。
武士3　なんと。
1　帝が参られたというに、
2　かぐや姫がおらんじゃと？
三人　帝？（武士達に気づき）ひい、は、ははぁー。
じじ　おい、どうするんじゃ。
ばば　わしが知るか？
父　わし、もう一度、探してくる。
ばば　たのんだぞ。
・父は去る。
武士2　かぐや姫がおらんとはどういうことじゃ。
じじ　は・それは、そのう・・。
・公家も登場。
公家　これ。帝がお待ちじゃ。姫の支度はまだなのか？
武士1　はっ。それが姫がおられぬと。
二人　石作皇子様！？
ばば　なぜこのようなところへ？
公家　・・・左遷されたのでおじゃる。
じじ　それはまたどうして。
武士4　皇子様は大仏様を壊そうとして・・
公家　もうよい。で、姫がおらぬとはどういう・・・
じじ　いや、実はその、外を少しばかり歩いてくると・・。
武士達・公家　何と！
武士3　姫のような美しい女をこんな夜中に。
ばば　今宵は十五夜、月が明るうございます。心配いりませぬ。
公家　何者かに連れて行かれでもしたらどうするのでおじゃるか？
じじ　いっ。なんでそれを知ってるんじゃ。
ばば　あ、あほう！
公家　今、・・何と言ったでおじゃるか？
じじ・ばば　・・・・・・・

武士3　申せと仰せなのがわからんのか！！
じじ　いや、実は姫は連れていかれたのです。
じじ以外全員　何と！
武士1　姫が。
2　さらわれた！？
ばば　何言うつもりか？
じじ　だまっとれ。かぐや姫が月の姫という話はご存知でしょうか。
公家　話では聞いておったが、まことでおじゃったとは。
じじ　はぁ、で、その、あ、姫は十五夜の今宵、月へ帰らなければならぬお人。
ばば　み、帝にご心配をかけまいと黙っておりましたのが裏目に出て・・。
じじ　つい先程月の使いがきて、連れて行かれてしまいました。
公家　それは大事でおじゃる。して、そ、そ奴らは今どこにおる？
じじ　は？
武士3　つい先程ならまだ間に合うじゃろ。
じじ　そ、それは、
ばば　・・あっ！　あの雲。・・あの雲に乗っておるんですじゃ。
武士達　何！
・公家を中心に集まり空を見ると、雷が鳴る。
公家　ひぃーえー～～。
じじ　月の使いが帰ってゆくーぅ。
ばば　雲がどんどん動いてゆくー。
武士4　あれこそまさに月の使い。
2　皇子様をお守りしろー。
3　かぐや姫をお救いせよ。
1　者ども、であえー！！
・弓を持った武士達が多数出てきて、整列する。
公家　あの雲めがけて、うてー！！
・騒然となり雷が鳴る中、暗転となる。

・照明がつくと、舞台は月が出ている山中の風景。「しんざ」と「かぐや」が下手奥より登場。

かぐや　うわあー（転んでしまう。）

しんざ　かぐや！！　ちょっと待ってろ、・・・大丈夫、誰も追ってこない。　今夜はここにいて、明日の朝、山を下りよう。

かぐや　飯は？

しんざ　ん？今晩は我慢しよう。

かぐや　ないのか？　じゃあ、飯食ってからまたこよう。

しんざ　何言ってんだ。帰ったりなんかしたら、じじとばばに捕まっちゃうぞ。

かぐや　いかんのか？

しんざ　捕まったら売られるんだぞ。売られたらどうなるか、話したろ。

かぐや　そうじゃった。じじとばばは嘘ついとったんじゃ。

しんざ　だろう。もうそのじじとばばの言う事は、聞かないでいいんだ。

かぐや　そうか、じゃあ次は誰の言う事を聞けばいいんじゃ？兄さか？

しんざ　・・・・何言ってるんだ？かぐや。もうお前は自由なんだ。明日には、好きなとこに行っていいんだ。

かぐや　・・・・・・・。

しんざ　どうした？

かぐや　ない。

しんざ　え？

かぐや　わし、行きたいとこなんてない。

しんざ　・・・でも、やりたい事はあるだろ、何でも好きな事ができるんだ。

かぐや　わし、なんもわからん。じじとばばがおらんと、何していいかわからん。

しんざ　そんな・・・。

かぐや　わし何すればいい。どこ行けばいい。兄さ教えてくれ。

しんざ　かぐや、自分で決めるんだ。でないと、逃げてきた意味

がないだろ。

かぐや　じゃあ、兄さについてく。

しんざ　何言ってるんだ、駄目だよ。

かぐや　いーや、ついてく。

しんざ　だめだ。

かぐや　ついてく。

しんざ　だめだ。

かぐや　じゃあ、兄さのとこに売られる。

しんざ　いいかげんにしろ！！

かぐや　・・兄さが怒ったぁ・・・

しんざ　あ、かぐや・・。これからは自分で決めてかなきゃいけないんだ。

かぐや　わし、兄さについてく。

しんざ　俺は炭焼きの仕事があるから、帰らなきゃいけない。これからは、自由に生きていけばいいんだ。

かぐや　なんでじゃ？

しんざ　え？

かぐや　何で自由に生きていかなきゃいかんのじゃ。

しんざ　それは・・・。

かぐや　兄さは自由なんか、炭焼きすることが自由なんか。

しんざ　・・・・・・

かぐや　なんでだまっとるんじゃ。兄さにもわからんのか。

しんざ　・・・・・・

かぐや　・・・兄さに分からんことが、わしにわかるわけない。

しんざ　・・・かぐや・・・

かぐや　・・・兄さぁ・・・

しんざ　分かったよ。かぐやのやりたいことが見つかるまで、一緒についてってやるよ。

かぐや　ほんとか。

しんざ　ああ。

かぐや　もう独りにしない？

しんざ　うん。

かぐや　わし、ついてっていいな。（しんざに手を差し出す。）

しんざ　兄さ！！わし、ずっとついてくからな。

しんざ　お前の夢が見つかるまで・・・。かぐや、行こう！！
かぐや　あーいー。
・二人はシルエットの中でストップモーション。狂言回しが登場。
狂言まわし　じじとばばの元から解き放たれた、かぐやと兄さ。山を降りた二人は名を変えて、夢を探して旅を続けるのでございます。さて、かぐやといえば、渦巻く人生の大海原に揉まれながら、兄さの背中をただ一つの頼りとして、あちらの町からこちらの町へと流れ流れて、ほれ、あなたのそば、その桟敷の隅におるやも知れませぬ。（ハリセン）語り尽くせぬ事はなお、多うございますが、これにて（ハリセン）、幕と、相成りましてございまする。
・木頭の音で、劇中劇終了となる。
狂言回し　はい、お疲れ様でした。
・あちらこちらから、『おつかれさまでしたー』の声がかかる。舞台上では、装置や道具を片づけて始める。そこへ、小屋主が登場。
小屋主　（拍手）いやー、ごくろうさん。良かったよ。
狂言まわし　ありがとうございます。
小屋主　こう連日満員だと、小屋主のわしも、鼻が高いわ。
狂言まわし　いえ、大したことではございません。私とかぐやの小さい頃の話、そのままでございますから。
小屋主　この話の後、おぬしらはさぞかし苦労をしたのであろうな。
狂言まわし　いえいえ、気ままに暮らしておりましたし、こうして芝居も始めました。
小屋主　うむ。お主らの芝居は大当たりじゃ。・・・そうじゃ今日は千秋楽。わしから、おぬしとかぐやに何か褒美をやらねばのう。
狂言まわし　いえ結構でございます。
小屋主　いやいや、こんなすばらしい芝居をしてもろうたんじゃ。せめて祝いの品でも、納めてくれぬか。

狂言まわし　そうでございますか。ではかぐやだけでも。
小屋主　そうか。　かぐやはどこじゃ？
狂言まわし　は。　かぐや、これ、かぐや・・・
・そこらにいた黒子が頭巾をとると、本かぐやである。
小屋主　（頭巾を取りながら）あーい。何じゃ？
本かぐや　かぐやはいつも元気じゃのぉ。
小屋主　あーい。
本かぐや　かぐや、お前、何か好きなもんないか。
小屋主　ある。
本かぐや　なんじゃ？
小屋主　兄さ。
本かぐや　はっはっはっ。ほんにかぐやは兄さっ子じゃのぉ。　して、何をしてやればよいかのぉ。
小屋主　褒めていただければ、充分でございます。
狂言まわし　何じゃ。褒めれば良いのか。
小屋主　はい、・・・『きれいだよ』・・とでも。
本かぐや　おお、そうかそうか。・・かぐやはいつみても、きれいじゃのぉー。
小屋主　あーい。
本かぐや　いやぁーきれいじゃきれいじゃ、わしはその笑顔を見るとほっとするわい。　おお、そうじゃ、また次の場所に行くのじゃろう。道中腹が減るじゃろうから、後でうちの者に弁当を届けさせよう。かぐやはどれくらいほしい？
小屋主　こんくらい。
本かぐや　おうおう分かりやすいのぉ・・。では、次の場所もがんばってくれ。おぬしらの芝居は、大当たり間違いなしじゃ。
小屋主　弁当ってほんと？　いっぱいだよ。　兄さもわしもいっぱい食べるからね、ね、きっとだよ。
狂言まわし　ああ、ああ、きっとだ。
・小屋主は去る。
狂言まわし　かぐや・・・・。

本かぐや　なんじゃ、兄さ。
狂言まわし　旅をしてきて、辛い事はないか？
本かぐや　兄さがいるから、平気じゃ。
狂言 まわし　やりたい事は、見つかったか？
本かぐや　ううん。
狂言まわし　そうか・・・・。
本かぐや　兄さは見つかったのか？
狂言まわし　（かぐやをみて）・・・ああ。・・見つかった。
本かぐや　そうか、よかったな。
狂言まわし　さ。次の場所へ行くか。
・座の一員が登場。
篤徳　座頭、小道具最初の荷車でいいですか。
狂言まわし　そうだな、積んどいてくれ。
篤徳　はいよ。
貴明　よしきた。（去ろうとする）
本かぐや　あのね、小屋主様がね、弁当いっぱいいっぱい作ってくれるんじゃと。
篤徳　また弁当いただけるんですか。
狂言まわし　さっき小屋主様と話していてな、かぐやの褒美に、弁当をいただけることになった。
本かぐや　みんなが腹一杯になるようにたのんどいたからな。
千尋　かぐやが頼んでくれたのか。
本かぐや　そうじゃ。
貴明　かぐやはいつもやさしいの。
本かぐや　わし、やさしいか。
貴明　おう。
・さらに座員が登場。
知里　座頭。衣装換えお願いします。
狂言まわし　おう。
貴明　あのな、また飯がいっぱいくるそうじゃ。
本かぐや　わしがたのんだんだぞ。
愛美　かぐやが。
知里　いつもいつもすまんの。
本かぐや　すぐ、くるからな。

知里・愛美　そうか。
狂言まわし　みんなにも知らせてやってくれ。
五人　へい。（はい）
・五人は、袖へ呼びかける。袖から座員が全員やってくる。
佳代子　また弁当もらえるんですか。
狂言まわし　ああ。
本かぐや　わしがたのんだんじゃぞ。
美智子　そうか、偉い子じゃの。
本かぐや　わしえらいか。
貴志　おお、おまえは偉い。
狂言まわし　ああ、もう、静かにせい。　小屋主様がな、皆が腹一杯になる程の弁当を、すぐに届けて下さるそうだ。
全員　おお。
篤徳　かぐやのおかげじゃ。
あさみ　かぐやは飯を頼むのが上手いのう。
本かぐや　うん。
敦子　かぐやについておれば、食うのには困らんのう。
芳久　そうじゃ、そうじゃ。
恭伸　この座組についておって、食うに困ったことはない。
佳子　ほんに、そうじゃ。のう。
全員　おう。
篤徳　かぐやはわしらの宝物じゃ。
貴明　かぐやは宝じゃ。
哲　宝はかぐやじゃ。
秀　そうじゃ、かぐやじゃ。
上手側　かぐやじゃ、かぐやじゃ。
下手側　かぐやじゃ、かぐやじゃ。
上手側　かぐやじゃ、かぐやじゃ。
下手側　かぐやじゃ、かぐやじゃ。
・木頭が入る。
全員　かぐや姫じゃ！
狂言まわし　かぐや、きれいじゃのー。
本かぐや　あーいー。

・木頭打ちはじめると同時に、幕が降り始める。

―幕―